

輸出は電気銅増加、スクラップは減少

スクラップの需給は均衡状態の見通し

橋本 橋本健一郎氏リポート①

五月前半は、ICSG(国際銅研究会)が二〇一八年の世界銅需給について、四万トンのSurplusになるとの見通しを発表したと、四月の米雇用統計は非農業部門就業者数が前月比一六万四、〇〇〇人増と事前予想の一九万二、〇〇〇人増を下回るなどのマイナス材料もあったが、中国物流連合会から四月の製造業購買担当者景況指数(PMI)が五一・四と発表され、事前予想の五一・三を上回ったと、中国の四月製造業購買担当者景況指数(PMI)は五一・一と三月の五一・〇、事前予想の五〇・九を上回ったとを好感しLME銅相場はUP、五月十五日時点で六、八二八ドル(セツル)と月初価格より五〇・五ドル高の前半締めとなった。

後半は、米中の貿易協議で中国が米国製品の輸入を増やし、双方が追加関税の発動を保留することとなった。米中が歩み寄る姿勢を見せたこと、マイナス材料もあったが五%シエアの世界最大チリ・エスコンデイト銅山の緊張をはらんだ労使交渉の再開による供給懸念などを好感しLME銅相場はUP、六月五日現在、後半スタート価格から一一・二五ドルUPの六、九三五ドル。銅建値七八万円のスタート。

◆月間のドル/円レート (TTS)
一〇九・八五→一〇八・五七(円)

◆自動車生産台数
日本自動車工業会によると、自動車生産台数は前年比〇・二%増の九三万二、〇〇三台であった。

◆自動車販売台数
日本自動車販売協会連合会によると自動車販売台数(軽除く)は前年比〇・六%減の二二万六、〇二三台。

◆新設住宅着工戸数
国土交通省統計によると、新設住宅着工戸数は前年比〇・三%増の八万四、二二六戸であった。

◆貿易関連指標
輸出
財務省貿易統計によると輸出は前年比で電気銅が一七・七%増の四万四、四九七t、スクラップが二六・二%減の一八、〇九三t。

輸入
輸入は電気銅が前年比四二%減の一、七二二t、スクラップ九・一%増の一、四七九t。

◆前月の国内指標
日本伸銅協会発表の伸銅品生産推移(速報)

によれば、前年比〇・六%減の七万〇、一四〇t。

日本電線工業会発表の出荷速報(推定)によると、銅電線出荷量は前年比〇・六%増の五万六、九〇〇tであった。

■概況
【自動車生産】
三月の四輪車生産台数は九三万二、〇〇三台で前年同月比〇・二%増となり、三月月ぶりに微増。
輸出は四四万二、六七五台で前年同月比五・三%増。

【自動車販売】
五月の国内自動車販売台数(軽は除く)は二二万六、〇二三台で前年比〇・六%減と、微減ながらも再び減少した。このうち、乗用車二・四%減、貨物一・七%増、バス六・八%減。

【住宅着工数】
平成三十年四月の住宅着工戸数は八万四、二二六戸で、前年同月比で〇・三%増となった。また、季節調整済年率換算値では九九・二万戸(前月比一〇・九%増)となった。
住宅着工の動向については、前年同月比で一〇カ月ぶりの増加となっており、利用関係別にみると、前年同月比で持家、貸家は減分譲住宅は増となった。
引き続き、今後の動向をしつかりと注視していく必要がある。

【伸銅品生産】
伸銅品生産は前年比〇・六%減の七万〇、一四〇tと二カ月連続減少。このうち、内需五万七、八五八tで〇・五%増と二カ月ぶりプラス、輸出一万二、二八二tで五・三%減と四カ月連続マイナス。品別では、銅条二万二、七二七tで〇・〇%減と前年並み、黄銅棒一万六、五七六tで〇・二%増と三カ月ぶりプラス。

【電線出荷】
前年比〇・六%増の五万六、九〇〇t。このうち、国内〇・五%増、輸出が五・三%増。出荷部門別では、通信八・七%減、電力一・七%減、電気機械一・一%増、自動車六・一%増、建設・電販二・八%増、その他内需七%減。

(六面へ続く)

今月の焦点は米朝首脳会談及び鉱山スト

(四面より続く)

【輸出】電気銅輸出が一七・七%増の四万四、四九七t。銅スクラップは二六・二%減の一八、〇九三t。

【輸入】電気銅が四二%減の一、七二二t。スクラップは九・一%増の一〇〇、四七九t。

【見通し】

・自動車は生産が〇・二%増、国内販売台数が前年比〇・六%減と、小幅ながら生産が三カ月ぶりプラス、販売が再びマイナス。販売が増加に転ずるかどうかが今後注目。

・住宅着工の動向については、前年同月比で〇・三%増と微増ではあるが一〇カ月ぶりのプラス。

増加傾向が続くのかどうか今後の動向に注目

・伸銅品は二カ月連続減少の前年比〇・六%減。

需要の多い銅条は前年並み、黄銅棒は三カ月ぶりプラス、輸出四カ月連続マイナス。自動車の伸び悩みが続く中、伸銅品生産も減少しており今後の動向に注視。

・電線は前年比〇・六%増の五万六、九〇〇t。輸出が五・三%増。

需要の多い自動車、建設・電販がそれぞれ六・一%増、二・八%増。建設・電販が六カ月ぶりプラスに!

・銅輸出は地金は円安から増加。

・銅輸入は大幅円安から地金は減少、代わりにスクラップは増加。

【スクラップ需給予想】

流通在庫は前月半ばごろ建値八〇万円台

鉄鋼や造船などの産業で生産抑制も

大気汚染の度合いが悪化なら—上海市政府

上海市政府は今年、大気汚染度合いが悪化した場合に石油化学や鉄鋼、セメント、造船などの産業で生産を抑える制度を導入する。四日、メッセアジアプリ「微信」で明らかにした。

国内で汚染削減への取り組みが幅広く行われていることから、大気質指数(AQI)が二〇〇を超えると生産を制限する北京市に追随するという。

で安定した事もあり、ほとんどでないのではないか。

需要面に関しては足元の生産状況は足踏み状態にあるが、比較的良好。ただメーカーが引き続き人手不足問題から地金を優先に使用していることから、品費の低いスクラップに関しては購買意欲は薄く均衡状態になるのではないかと。

【価格・為替予想】

今月は六月十二日開催予定の米朝会談及び鉱山ストに左右される

米朝会談に関しては、二転三転したうえでの開催であり、北朝鮮がトランプへの脅しで失敗した後での開催であることから脅しが通用しないことは承知の上、大きな前進があるのではないかと。

鉱山ストに関しては五%シェアの世界最大チリ・エスコンディダ銅山の緊張をはらんだ労使交渉の再開が行われているが労使交渉は行き詰まる可能性が高いとも報もあり供給不安は続くのではないかと。

それらを踏まえた六月の銅価格は、米朝会談や鉱山ストが問題なく終了した場合、先月高値の七、〇〇〇ドルを予測。いずれの場合も六、八〇〇ドル。

下値はいずれの条件も達成できなかった場合、先月安値の六、七〇〇ドル。

為替は、前記材料からドル円値は一〇八円〜一一〇円(TTM)台を予測。

銅建値に関しては七六〇〜八一〇円程度と予測している。

上海市内では汚染が悪化すると建設活動も制限され、屋外でのバーベキューや花火、農作物を燃やす作業なども禁止される。

中国では大気汚染による健康被害が発生し、政府が対策を進めている。ただ、対策は北京近郊に集中しており、環境保護団体は企業が南部への移転を進め大気汚染が上海や揚子江デルタ付近に広がっていると訴えている。